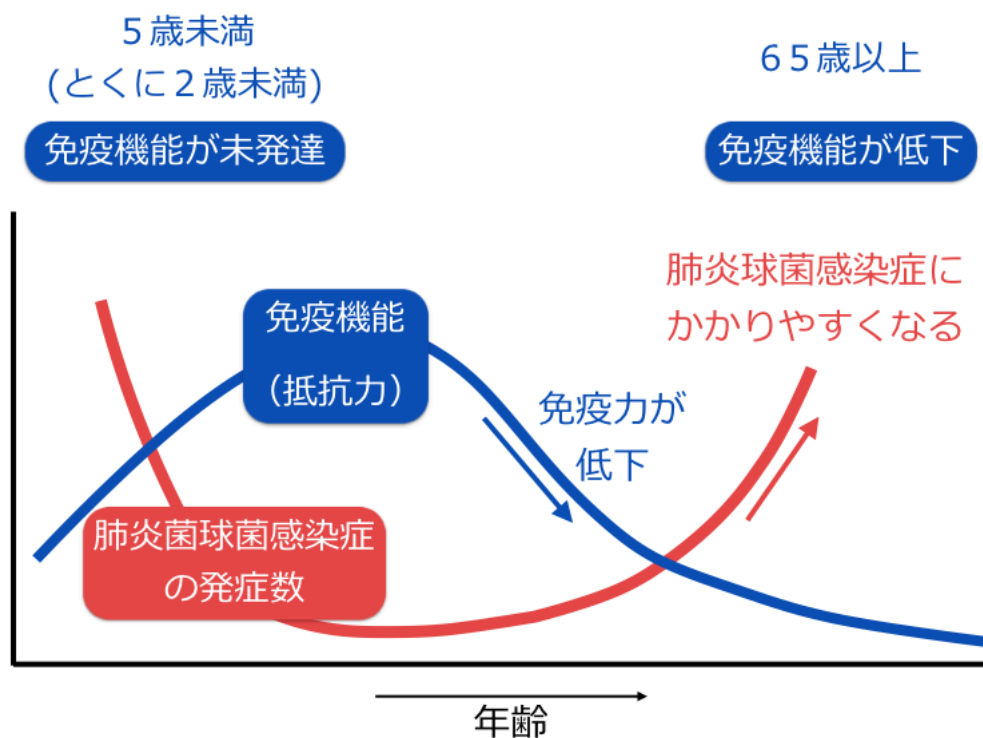


高齢者の肺炎球菌ワクチンについて

肺炎球菌感染症の罹りやすさ



肺炎球菌は、全ての年齢において、肺炎の原因菌として重要です。しかし、免疫が不十分、もしくは低下している場合は、特に重篤な肺炎球菌感染症に罹りやすいことがわかっています。糖尿病・心疾患・呼吸器疾患などの持病のある人や、免疫を抑制する薬剤を投与中（ステロイド・生物学的製剤・抗ガン剤）の人、またこれといった持病のない人でも、2歳未満は免疫能が未発達のため、また65歳以上では免疫能が低下するため、注意が必要です。

2種類の肺炎球菌のワクチンについて

肺炎球菌ワクチンには2種類あり、どちらも高齢者の肺炎球菌感染症を予防する効果があります。

現在、日本で高齢者の定期接種として接種できるのは

「ニューモバックス(23価)」のみです。

「プレベナー-(13価)」は任意接種として接種することができます。

ただし

- ・既に「ニューモバックス(23 価)」を接種したことがある場合は、定期接種の対象とはなりません
- ・「プレベナ- (13 価)」を任意接種で接種しても、その後ニューモバックスの定期接種の対象となります

	ニューモバックス NP	プレベナ-13	
接種対象者	2 歳以上で肺炎球菌による重篤な疾患に罹患する危険が高い人(高齢者等) 高齢者：65 歳以上	小児：2 ヶ月齢～6 歳未満	
費用負担	65 歳以上は定期接種 B 類 (公費の補助が出る：3 割程度) 脾臓摘出後患者は保険で接種可 これら以外では任意接種	任意接種 (全額自費)	5 歳まで定期接種 A 類 (全額公費)
接種経路	筋肉内または皮下	筋肉内	皮下
有効成分	23 価肺炎球菌莢膜多糖体ワクチン	13 価肺炎球菌結合型ワクチン	
血清型 赤は共通の型	1,2,3,4,5,6B,7F,8,9N,9V,10A,11A,12F,14,15B,17F,18C,19A,19F,20,22F,23F,33F	1,3,4,5,6A,6B,7F,9V,14,18C,19A,19F,23F,	
免疫記憶効果	なし 持続効果は劣る(5 年程度) 反復接種や感染による免疫の活性化(ブースター)効果なし	あり 反復接種や感染による免疫の活性化(ブースター)効果あり	
菌定着防止効果	なし	あり	
主な副反応	注射部位の痛み・腫れ、頭痛、腋窩痛	注射部位の痛み・腫れ、筋肉痛、疲労	
価格比較	比較的安価	比較的高価	
販売開始	2006 年	2013 年 (7 価：2009 年)	

先にプレベナ-を接種してからニューモバックスを接種することで、免疫の効果が大きく上がることがわかっています。(アメリカでの定期接種のパターン) 高齢者のための肺炎球菌ワクチンの「任意接種」について

- 過去にニューモバックス(23 価)の接種歴がない方で
 - ・ H27 年度から H30 年度までは、各年度中に 65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳となる方 もしくは
 - ・ 60 歳以上 65 歳未満で心臓・腎臓・呼吸器疾患、HIV 感染 の 4 つのいずれかにより、障害者手帳 1 級相当の障害のある方→ ニューモバックス(23 価)を定期接種

- 上記以外の 65 歳以上の方（過去に接種歴あり/定期対象外年齢）、65 歳未満で肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高い方
→ ニューモバックス(23 価)またはプレベナ-(13 価)を任意接種

当科では、最も効果的に肺炎球菌に対する免疫をつけるため、また定期接種のニューモバックスを受ける機会を活かすため、65 歳以上の方については、

過去に肺炎球菌ワクチンを何も接種したことがない人で
定期接種対象外の年齢で任意接種をご希望の方の場合
→ まずプレベナ-を接種して、6 ヶ月～4 年以内に
定期接種対象年齢でニューモバックスを接種

を推奨しています。

過去にニューモバックスを接種したことがある人で
肺炎球菌ワクチンの任意接種をご希望の方

- 定期接種でニューモバックスをうけることはできません。
ニューモバックスは 5 年程度で効果が減弱してしまうことから
一度プレベナ-を接種してから、6 ヶ月～4 年以内に、前回のニューモ
バックス接種から 5 年以上経過していることを確認して再接種
を推奨しています。

参考 日本呼吸器学会/日本感染症学会 合同委員会 (2019 年 10 月)
PDF [「65 歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方」](#)